

今年度の活動

座間市ひきこもりサポート事業

「みんなの居場所 ここから」がスタートしました！

ひきこもり気味の皆さん、「みんなの居場所 ここから」に来ませんか？

お茶を飲みながら、いろいろお話をしましょう。ひとりが良い方はのんびりとしてください。「みんなの居場所 ここから」は、誰でも自由に利用できます。自宅以外に自分の居場所をつくってください。私達は、そんなあなたを応援します。（この名称は2人の「はたらっく・ざま」の利用者からの応募で決まりました。）

<経過>

「はたらっく・ざま」の活動が4年目に入りました。ここに通ってくる利用者の大半は、働く気持ちが強くある人達が多く、様々なプログラムを利用しながら就労をめざしています。しかし、一定のプログラムを終えて次のステップに向かえない、メンタルが不安定になり就活には至らない、病気を抱えていて実習までできないなど、「はたらっく・ざま」の支援では、抱えている困難を解決できない人たちの存在が見えてきました。もっと入口が緩やかで、自宅以外に通える居場所のニーズが生まれたのです。さらに就職できた利用者が相談できる場、ほっとできる場として「はたらっく・ざま」以外の居場所が求められていました。また、昨年8月から座間市で始まったアウトリーチ支援でも、ひきこもり傾向にある人達には、「はたらっく・ざま」ではハードルが高く、最初に通える場として居場所の必要が言われてきました。

このような気づきもあって、2021年度、座間市はひきこもりサポート事業の取り組みを開始、居場所事業の運営に「はたらっく・ざま」と同じ生活クラブ、ワーカーズ・コレクティブ協会、さがみ生活クラブの共同企業体に委託を決定、6月中旬よりスタートすることになりました。事業実施場所は、「はたらっく・ざま」と同じビルの2階にあります。

就労準備支援事業と居場所事業が連携してひきこもり者の支援を展開します。スタッフは新たに2人増員、「はたらっく・ざま」から1人、さらにサポーターとして、「はたらっく・ざま」の利用者が協力してくれることになりました。PCの講師やアシスタントとして関わってもらいます。一緒に居場所事業を手掛けることができるようになり、本当にうれしいです。

<はたらっく・ざまの利用者アンケートから

プログラムづくり>

始めるにあたって、「はたらっく・ざま」の利用者に居場所の内容、名称などアンケートをお願いしました。16人中全員が、「居場所ではプログラムがあり、参加は自由が良い」の回答でした。何もないより何かすることがあるのが良いことがわかりました。関心あるプログラムでは、折り紙、小物づくり、漢字練習、PCなどが多くありました。ボランティア体験、内職も関心が高かったです。また、何もしないでのんびりとする、お話をするフリーカフェへの回答も多くありました。

居場所では、上記メニューに加え、家族や当事者の相談を受けます。相談内容によっては他所の支援機関を紹介します。家族や当事者向けのセミナーも行う予定です。

<立ち上げイベント>

立ち上げイベント企画として、7月20日（火）午後2時から家族向けセミナー「ひきこもり者との接し方について」を精神保健福祉士の池田陽子さんを講師に開催します。これまで「はたらっく・ざま」に相談に来られた家族にご案内をして、家族が抱える悩みに寄り添いながら、希望が持てるセミナーを開催します。

ワーカーズ・コレクティブ協会にとって初めての試みですが新たなチャレンジとして、ひきこもり傾向にある方達が安心できる居場所づくりをめざし、「ここから」社会に繋がるサポートをしていきます。

(岡田 百合子)



「おたすけ隊」の取り組み

「はたらっく・ゆがわら」は2021年度も引き続き県から就労準備支援事業及び居住不安定者等居宅生活移行支援事業を受託しました。2019年度の事業開始から3年目となり、生活困窮者の支援を続ける中で、地域課題がみえてきました。

最大の課題は、地域資源の少なさです。湯河原町は生活クラブの中でも一番西側に位置しています。組合員数は200世帯ほどですが、小田原センターから少し遠いこともあり、組合員活動も地元ではあまり活発とはいえません。また、W.Coなどの生活クラブから派生した団体もない地域です。そのような地域で事業を行っている、例えば、就労準備支援事業の実習先をみつけることも、容易ではありません。また、困窮者のアパート探しに関しても地域の不動産業者の理解が進んでいないことから、物件探しは難航します。小田原方面にも足を伸ばし、連携団体を開拓していますが、地元の人とのつながりは地域での支援には欠かせません。やはり生活クラブ組合員の力が今後の困窮者支援の継続には不可欠と感じて、はたらっく・ゆがわらを側面から支援してくれる組合員のグループ（おたすけ隊）ができないうらうかと、考えました。

そこで、昨年の湘南生活クラブ生協に向けた活動報告会で、「おたすけ隊」の必要性を共有し、その後の共同企業体会議において、「おたすけ隊」結成の提案をしました。「はたらっく・ゆがわら」開設時の説明会に参加してくれた組合員を中心に声掛けし、城下町 commons 運営委員会の協力も得て、昨年12月に説明会を開催し、7名の方が「おたすけ隊」に参

加の意思表示をされました。

当初は、「はたらっく・ゆがわら」を支える「おたすけ隊」をイメージしましたが、生活クラブの組合員を中心とした地域の活動であるならば、「はたらっく・ゆがわら」だけでなく、湯河原町のまちづくりのことを一緒に考えるゆるやかなアソシエーションの方が当事者意識ももちやすく、長期的な幅広い活動になると考え、「はたらっく・ゆがわら」主導ではなく、組合員主導の活動になることを重視しました。結果的には、城下町 commons の運営委員に代表になっていただき、湘南生活クラブの理事が副代表、「はたらっく・ゆがわら」が事務局を担ってスタートしました。

4月19日の第一回ミーティングには、9人が参加して正式にスタートをきることができました。参加者のなかには、「寄付品などを集めるくらいしか、協力できないわよ」という方々もいますが、地域づくりのアソシエーションとして何をやってみたいか、というテーマで意見交換をすると、町歩きやビーチクリーン、commonsの自然エネルギー見学会への参加、などの意見が出てもりあがりました。また、せまい町なので、メンバー同士が別のつながりがあったりして、和気あいあいとしたミーティングとなりました。コロナ禍でもあり、当面はLineやメールでの情報発信がおもな活動となりそうですが、会の最後に参加者から「せっかくだから、たまには顔をあわせて、何かやりたいですね」という言葉がきかれ、今後の活動につながりそうな予感がしています。

「おたすけ隊」が「はたらっく・ゆがわら」との情報共有などを通して、地域の課題に気づき、自立的な活動になっていけば、湯河原のまちづくりに関心をもつ人もきっと増えていくのではないのでしょうか。今後の湯河原「おたすけ隊」の活動に乞うご期待！！

(柏木 晶子)



「はたらっく・ひらつか」始動しました！

5月連休明けから利用者を受け入れ、「はたらっく・ひらつか」が始まりました。5月末で5人（女性4人、男性1人）が申し込み済みです。いずれも50歳代、働いたことはあるが、何等かの理由で働けなくなったという方が多く、社会参加や就労のチャンスを求めて、「はたらっく・ひらつか」の扉をノックしてくれています。

「はたらっく・ひらつか」は座間や湯河原について3つめの生活クラブ生協神奈川、地域生協（湯河原、平塚は湘南生活クラブ生協）、ワーカーズ・コレクティブ協会による共同企業体として平塚市の就労準備支援事業を2月に受託しました。3月には事務所を開設、そして4月にかけてハード面、ソフト面の準備を整え、5月から利用者を受け入れることになりました。

スタッフは全員で現在5人。私は今年2月まで「はたらっく・ゆがわら」に通っていました。今回平塚在住ということで開所が決まった時に異動ということになりました。「はたらっく・ゆがわら」の利用者はどちらかというと高齢者が多く、就労準備というより居場所的な色合いがありました、湯河原町自体がみかん山や温泉街といった風情で温暖な気候でのんびりしているように見えます。生活保護等の高齢者や健康等の困難を抱えて生きる一人暮らしの人たちが、まず家から出て通ってもらうこと、健康的な生活を送ってもらえるような気配りをしていました。

「はたらっく・ひらつか」は、ひきこもり状態にある人たちから80-50の対象者、障がいの疑いのある人たち、就労ができない、継続しない人たちなどで15歳から65歳までの人達が対象となります。すでに申し込み、または面談予約の人たちはまさにこのような人たちです。対象者（利用者）の社会的自立にむけた支援を行います。

平塚市は、相模川を越えた位置にあり今は湘南ひらつかとってはいるものの湘南という言葉に違和

感を持つ市民も多くいます。日産車体（今はない）に代表される大きな会社の工場が多く、また（昔は）商業も盛んで近隣からの買い物客も多かったとか（今は面影のみ）、北部エリアは農地が広がっています。海や山の自然が売り物で、私はここに40年住み続けているわけです。つまり何となくそれなりに見栄もはらず自分の暮らしが営める所なのかもしれません。所得平均は県内でも高くないと聞いています。

その平塚市に生活クラブ生協は40年以上前からあり、組合員もデポーと合わせ約2000人がいます。ワーカーズ・コレクティブも4団体、WEショップは2店舗、ネット平塚など運動グループもローカルユニットを形成してつながっています。ラ・ポール平塚訪問介護事業所サポートハウス和もあり、さっそく情報交換や実習協力をお願いに訪問したところ「はたらっく・ひらつか」の事業に関心を寄せてくれているということがわかり心強いです。湘南生活クラブ生協はもちろんのこと障がい者福祉にかかわっている人から平塚市の状況を聞いたり、体験実習の協力事業所依頼へ出向いたり、まずは関係のある人や運動グループへの協力体制づくりも進んでいます。また、事務所探しの時の不動産屋紹介、什器類の寄付についても声掛けするとすぐさま持ってきていただきました。事業内容への関心も高く、ボランティアの希望も寄せられています。

利用者は生活スキルアップセミナーや職場見学、事業所交流、ボランティア体験、お楽しみサロンなどさまざまな体験を通じて自分に自信をつけること、スタッフは利用者の個別の課題をよく理解して適正な支援ができるようになること、まずはそこから頑張ります。

ワーカーズ・コレクティブ運動の価値をあらためて多くの平塚市民に伝えていく機会となればと考えます。



（大嶋 朝香）